

令和 3 年 第 3 回
上小阿仁村議会定例会

会 議 録

令和 3 年 6 月 8 日 (開会)

令和 3 年 6 月 10 日 (閉会)

○議長（伊藤敏夫） 再開します。

○議長（伊藤敏夫） 次に、2番 佐藤真二君の発言を許します。はい、佐藤真二君。

（2番 佐藤真二議員 一般質問席登壇）

○2番（佐藤真二） 最初に、村長に一言、ごあいさつさせていただきます。またこうして小林悦次村長と、村長と議員として議論を交わすことを楽しみにしていました。と、お伝えしておきます。村長の答弁には、たまに議員として苛立ちを感じることもありましたが、村長も二期目に入りましたので、今日は良い答弁をいただけたものと期待しておりますので、よろしくお願ひします。

まず一つ目は保育園建設についてであります。村長は今年度予算に、保育園建設の設計費と必要経費として、5,400万円程予算をみました。保育園を建て替える計画は、私の孫もお世話になっておりますので喜ばしいことですが、年々園児が減少しています。今日の村長の行政報告にもありましたように、現在園児の数は29名であります。改築計画を進めるためには予算をつけなければ、進められませんので、設計費用を予算化したのでしょうか、園児を増やすための政策は一向に聞こえてきません。建築のため、各課の課長と診療所事務長、議会事務局長が入り、5名でかみこあに保育園建設庁内検討部会と、また、議長、総務産業常任委員長と村内各団体の代表を合わせまして、9名で、かみこあに保育園建設検討委員会。建設のためのプロジェクトチームを作るのは、進め方としては良いと思いますが、園児を増やすためのプロジェクトチームも必要ではないでしょうか。箱物建築も反対や様々な意見があり、大変ではありますが、本来、村長として能力を問われるのがこちらの問題。いかに園児を増やすかだと思います。私としては持論として、私が思うには、本来、こちらのプロジェクトチーム。園児を増やすためのプロジェクトチームであります。こちらが先で、どうしたら園児を増やせるかという会議の中で、建て替えの話が出てくるのが、筋道だと思います。

村長は二期目の一年目で、その当初予算に保育園建設の設計予算をみましたので、保育園を建て替えるのであれば、村長として、何かしら園児を増やすための政策も考えてあるものと思います。

村長の答弁をお聞かせください。

○議長（伊藤敏夫） はい、答弁を許します。小林村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 園児を増やすための政策についてであります。園児を増やすための政策というふうなご質問でありますけれども、少子化対策と捉えております。言うまでもなく、少子化は未来の生産年齢人口の減少により、経済成長に与える影響、社会保障の負担増などにつながり、正に、少子化対策は待

ったなしの状況にあります。少子化の原因の背景として、働きながら子育て出来る環境が十分でないとか、経済的理由で結婚に踏み切れない。そして、結婚する必要性を感じないなどのお話をよく聞かれますけれども、地域や人によって、その理由や対応は異なるというふうに思っております。子育て支援という面では、先の伊藤議員の質問にお答えしたように、子宝祝い金や医療費の無料化、保育料・給食費の無料化、さらには乳幼児の交流と育児相談等を目的とした、ひよこの会や離乳食講習会など、多くの子育て支援を実施しており、他の自治体と比較しましても、決して劣らない子育て政策をさせていただいておりますけれども、その効果については、満足するものにはなっておりません。この少子化を食い止める方策は、子供に関する直接的なものや地域の生活環境など、たくさんの方が総的に影響しておりますので、一つの政策や事業によって、達成できるものではありませんけれども、結婚や子育てをしたい人たちの願いを叶えるためにも、雇用の創出、住居の確保等の総合的な対策が必要であるというふうに考えております。そのためには、現在、新過疎法により見直しをかけております、過疎地域持続的発展市町村計画や、まち・ひと・しごと創生総合戦略を着実に実践することによって、一人でも多くのお子さんが生まれるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。ですが、我が村は秋田県でも一番、子どもが少なく、一番子どもが生まれない村であります。村長が言うように、一つの政策では難しいのは、当然、私たちもわかります。ただ、村長になった以上は、やはり、この上小阿仁村を何とかして、今、まして村長から、保育園を建設すると。現在29名が、来年は何名になるのですか。実際、保育園の建設が必要かという問題で、反対する方もいます。ですから私は、建てるのであれば、議会も予算を通し、来年度も通し、建設するには、数億の予算を通さなければなりません。そのためには、反対する方々を一人でも減すためにも、こういう政策もしています。いろいろやっています。と、我々も説明ができるような、村長独自の政策が、私は欲しいのです。今、他町村の政策と同じようなことをやっていますが、我が村には、なかなか人は来てくれません。この後の質問の時にも話をしますが、移住・定住に関しては、我が村は、たぶん上小阿仁村は秋田県で最低ではないかと、私は思っています。そういう活動はしていない。その中で、どうやって1人でも子供が、今いる現在の方々にも、生んでいただくということはやっていますが、やはり、外から来ていただくための政策を。そのような独自の政策はないのか、もう一度、お伺いいたします。

○議長（伊藤敏夫） はい、小林村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 直接的な、いわゆるペニシリン的な特効薬があるかというふうなことにつきましては、先ほど申し上げたとおり、やはり、いろんな政策を講じながら、総合的に対応せざるを得ない。そのために総合計画を作らせていただいで、それに基づいて財政計画、年次計画によって、それを対応させていただくというふうなことであります。今現在、一つの例を申し上げますと、コロナ禍にあつて、十分に利用されておられませんけれども、例えば農業体験を目的とした、農家民宿も開業しております。村内での合宿や農業体験等を実施される方々を、誘致するための助成制度も設けておりますので、これにより、交流宿泊者の促進がはかられ、何人かでも移住につながればというふうに考えております。また、2名の協力隊が着任をしております。村の魅力を発信しながら、関係人口の創出拡大に向けて、取り組んでいただいております。今後も、少子化克服に向けて、子育て支援策の一層の充実を図り、地域、実状に即した取り組み、強化を図るため、村の総合計画の実効性を確保していきたいというふうに思っております。いずれ、総合計画につきましては、また議会のご審議をいただきながら、対応させていただきたいというふうに考えておりますので、いろんな形でのご指導、ご支援をいただければというふうに考えております。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。誰がやっても難しいことでもあります。ただ、反対する方がいる。保育園の園児は減っていく。だから、あのままでいいとは言われませんので、建築、建設していくことは仕方がないと思いますが、ただ、これを機に少しでも保育園の園児が増える。この後の質問、3つ全部関連しておりますので、ここで言ってしまえば、次の質問が必要なくなりますので、ここで止めすけど、ただ、もう一つは村の子どもに対する制度は、大変すばらしいと思います。北秋田市の方もすばらしいと言っています。ただ、上小阿仁に仕事がない。ここから逆に、北秋田市まで通わなければならない。そういうふうなことも言われます。今、移住・定住のコーディネーターもいますので、上小阿仁に来ていただくためには、やはり、こういうことをアピールしていただきたいと思います。まだまだ私は、上小阿仁村の良さをアピールすることが足りないと思います。いろいろな部分に、お店の関係、いろいろなものに出て歩いておりますが、上小阿仁村のものをもっと、こういう施設、こういう制度、インターネットだけでなく、いろいろな場面で、宣伝していただきたいと思います。このことをよろしく願いして、私の1つ目の質問を終わります。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 続きまして、2つ目の質問であります。2つ目は、村長の村に対する、将来ビジョンについてあります。村長は一期目、事あるごとにあいさつの中に、山を動かす話が出ていましたが、二期目はコロナウイルス対応に追われているのが現実で、一期目ほど、村を引っ張って行こうという気迫が感じられません。コロナウイルス対策もワクチン接種が進み、村民にも一定の安心感が出てきましたので、コロナ後の村長の手腕に期待をしたいのですが、新年度予算で、目新しいのは、保育園の改築だけあります。箱物は先ほども申しましたように、村民からの声があれば、誰が村長でも建てれます。箱物以外に4年間でこれは「私、小林悦次でなければできない。」というような政策はないのでしょうか。

村長の答弁をお聞かせください。

○議長（伊藤敏夫） はい、小林村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 村の将来ビジョンについてであります。今現在、一番の対応としましては、やはり、世界的に猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症を一日も早く終息をさせ、村民が安心をして生活できる環境を整備することにあります。村の政策につきましては、一期目も二期目も、基本的には同様に考えております。村の抱えている少子高齢化、人口減少に対応しながら、村民のために、村民の健康の長寿・教育の充実・雇用の拡大を重層的に住民の目線で総合的に推進をしていくものであります。この内容につきましては、先日、3月定例会の施政方針の中でも、表明をさせていただいております。なお、その中に国が示している2050年までに二酸化炭素の排出量を、さまざまな手段で相殺して、実質ゼロにするための森づくりが宣言をされております。これまで、村の課題解決のために、村にたくさんあるもの、そして村にしかないものを利活用することで、循環型の農林業の自然エネルギーを活かすことを政策としてまいりました。ここにきて、山について、森林環境税による民有林4,000haの森林整備。そして村有林2,000haの複数年契約による事業化のための施策については、関係者との話し合いを今、これからする予定としております。また、萩形ダム直下の水力発電施設からの水の再利用のための調査研究を、担当者レベルで対応しておる状況であります。基本的な施策遂行のために、村に眠っているたくさんの資源を利活用する、上小阿仁村版ニューディール政策として、進めていくものであります。村民の力と知恵をお借りして、人にやさしい、健康で安心して生活できる村を、皆さんと一緒につくっていくのでありますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。いずれにしても、二期目につきましても、この政策、基本的な考え方には、一切変わる

ものはありませんので、よろしくご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。今、村長からの答弁を聞きまして、少しは安堵しておりますが、まだ、6か月しかありませんので。また、今回はコロナ対策で、村長との会う機会も少ないので、なかなか村長のご意見を聞く機会がなかったのもあります。それから病気もありましたし、いろいろありまして、村長が少し、気迫が足りないのではないかなど、私から見ると、1期目の時は、大変、猪突猛進みたいのに、みなさんが止めるのも聞かず、いろんなどころに歩いていきましたが、今回は少し、大人しいなと思いましたので、質問させていただきました。ただ、私の質問も少し、抽象的ではありますが、村長の答弁も抽象的でありますので、やはり何かこれ1つ、特化したものを、上小阿仁村の小林悦次を、これをやり遂げるのだと。1期で足りなければ、2期でもがんばるのだと。そういうふうな気迫、そして、そういう柱をたてて、村民を引っ張っていき、必要な経費がかかるのであれば、議会と喧々諤々やり、村にある財産をつかい、村民の、多分、村長の時代に2,000人を切ります。そこを何とか村長はわかっているように。平成27年ですか、地方創生の会議をやった時よりも村民は減っています。計画よりも減っています。何のためにやったのでしょうか。あの会議でも、何人も費やして、20年がんばって10人しか変わらないと言っていました、10人どころじゃなくて、もう完全に計画よりも減っております。そのところを頭に入れて村長は、抽象的ではなく、きっちりした柱をたててやっていただきたいと思います。

私の2つ目の質問は、これで終わります。

○議長（伊藤敏夫） 後4分で正午になりますが、続けます。

はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 次の3つ目は、先ほども話をしましたが、保育園児やこれからこの村を引っ張っていただく若者の問題であります。最近の若者の村外流出の問題についてであります。

近年、村の若者が、村外へ住んで仕事は村という若い方たちが増えていきます。この中には当然、村職員も含まれておりますが、なぜ、村を出なければならないのか。いろいろな問題があると思いますが、悩んで決めた結論だと思います。結婚して村に住んでも、なかなか夫婦両方とも、村の中で仕事に就くことができず、どちらかが村外へ仕事を求めなければなりません。仮に、奥さんの方が村外へ通うとしますと、朝、子供を保育園、小学校に出してから村外への職場に通うとしたら。想像してみてください。どれほど大変なものか、想像がつくと思います。奥さんの負担を少しでも軽減しようと思えば当然、奥さん

の職場の方に居住地を求めると思います。一般の会社員はそうしているうちに、村までの通勤負担が多く、居住地の方に職場を求め、村からまた、大切な若者がいなくなり、気づかないうちに少しずつではありますが、村としてのパワーが減っていつています。

上小阿仁村は他町村から見ますと、先ほども話をしましたが、移住定住政策については、大変遅れていると思います。一人の若者を呼び込むだけでも難しい村ですので、現在、村でがんばっている若者が、今後も村に住み続けてもらうための政策は何か考えているのでしょうか。

村長の答弁をお聞かせください。

○議長（伊藤敏夫） はい、答弁を許します。小林村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 若者定住のためには、働く場所の問題や住宅の問題、生活環境の整備、子供の将来性など、たくさんの課題を解決していかないといけないと思っております。それぞれの地域には、良いところと少し劣るところがありますので、地域の特性を活かしたものとしての、村の総合計画によって、施策を推進してまいります。なお、若者の定住・移住対策の一つとして、住宅に関する政策では、老朽化した村営住宅を政策空家として、入居者の募集を停止して、その後、解体・建て替えを検討してまいります。公共住宅のマスタープランとしては、団地化した用地に、1階を高齢者、2階を若者の住居スペースとするアパート建設を検討しながら、分譲宅地として、団地化した宅地の造成を検討するなど、村内の住宅需要を考慮した政策の見直しも必要と考えております。また、経済対策として脱炭素化社会の構築に向けた、村内に豊富にある自然エネルギーを活用した企業の誘致なども検討してまいります。例えば、小阿仁川の水資源を活用した水力発電や、木材資源等を活用したバイオマス発電やチップボイラーなど、化石エネルギーではなく、自然エネルギーによって、たとえば、水素やアンモニアなどを製造することで、自動車の燃料や発電の燃料にすることなどによって、CO2を発生しない対応について、情報の収集に努めながら、可能性のあるものについては、積極的に取り組んでいくものがあります。民間でできることは民間で対応することが、村の将来にとって良いものであるというふうに思っております。事業推進にあたり、知識がなければ、知識のある人に教えてもらうこと、やれる人をお願いすることが大切であるというふうに思っております。一人の力は、小さいものでありますけれども、二人になれば、二倍ではなく、三倍にも四倍にもなるというふうに確信しておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げて、村のために、一緒にがんばらせていただきたいというふうに思っております。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。村長が話をされた中で、企業の誘致なども話をされました。確かに、働く場所がなければ、先ほども話したように、夫婦とも上小阿仁で働くことができない。そのためには企業がなければできないわけですが、企業の誘致は、先ほど話をしたとおりの、地元の人たちでも、一般の方々も上小阿仁村から出ていきます。地元の方でも、村外から就労する方を探しています。この地元の企業が、地元から人を雇えないのに、どうやって誘致企業が来ますか。大変難しいと思います。上小阿仁に住んでいる方が、先ほど話したように、村外へ勤めている若者がいます。そして向こうでアパートを借りたりして、村から出て行っている。逆に村でがんばっている企業は、本当、大変ですが、村外から来る方へ、高い交通費を払ったりして、来ていただいております。そういうのを考えると、昔の感覚ではもう難しいのです。上小阿仁村の民間の企業の力というのは、昔みたいに、大きくはないのです。やはり、一番大きい力を持っているのは役場です。村自体が、一番大きな企業だと思っています。民間の力と村の力を合わせて、大きなことをしなければ、村からどんどん、若い人がいなくなってしまう。先ほど話したように2,000人を切ります。65歳未満が1,000人を切ります。どれだけ大変な村になるかをわかっていて、村長になったと思います。われわれ議員ですので、村長のやることを、良しか悪いか、そういう判断をしますけれども、村長からアイデアを出していただければ、村が良くなっていきます。それから、先ほども少し触れましたが、村の職員も村外から通ってきています。ですが、これには、それぞれ皆さんの事情がありますので、辞めざるを得ないような形に追い込むのは、やめていただきたい。やはり公務員は、行政サービスに長けた、経験を積んだ方々がいないと、村民が困ります。今、日本の公務員は、平均で1,000人に40人未満と言われていています。世界の中でも、日本の公務員は少ないそうです。ヨーロッパでは1,000人に100人。アメリカですら、70から80。日本は1,000人に対して、40人前後です。それでは、行政サービスが本来はできないので、じゃあ、日本ではどうしているかという、臨時職員を増やして、対応しているそうです。ただ、臨時職員は、1年単位の継続性のない、正職員より、責任を持つ権限が薄い。ですから、行政サービスが滞る。村に若い人が住めないのは、村をつくっているトップが悪いと、私は思っています。こういう方々が、追い込まれて辞めざるを得ない形にならないように、是非、上小阿仁村に通ってきていただけるよう、今、恵比原副村長のよう、そして高橋教育長も上小阿仁村に。ある程度、年をとってからでもいいのです。職員としてまた、村に戻ってがんばっていただいて、村をちゃんと考えていただけるような、計画していただければ、私はいいと思っています。これから、肩身の狭い思いをするようなことをしないで、今いる若い人たちが、一

人でもここに住んで、やはり上小阿仁村は良いよと思えるような村にしてい
だきたいと思いますので、そのところ、村長はどのように考えていますか。

○議長（伊藤敏夫） はい、小林村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 役場職員のことについてのご質問であります。役場職員
につきましても、採用になってからすぐ、研修を含めまして、いろいろな形での
スキルアップを図らせていただいている。そういう中で、職場経験も豊富に、
やっとなれてきて、行政サービスの向上につながってきているというふうな状
況の中で、やはり、定年までしっかりと働いて、村民のために働いていただき
たいというふうに考えております。いずれ、そのような対応を、これからも取
らせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくご理解をいた
だきたいというふうに思います。

○議長（伊藤敏夫） はい、佐藤真二君。

○2番（佐藤真二） 答弁、ありがとうございます。村長の答弁を聞きまし
て、ひとこと言わせてもらいたい。質問事項にはないのですが。前に、私が一
般質問で、村から村外へ仕事にいつている方々に、交通費を出していただだけ
ませんかという話をしてありますが、中田村長、小林悦次村長にも一向に、動い
ただけだけません。前にも話をしたように、長野のとある村では、東京に通う
方に、45,000円から50,000円の交通費を毎月、出しているそうです。そのよ
うな村もあるわけです。何を言いたいかという、外から通っている職員は、
たぶん、交通費をもらっているはずなんです。村に残ってがんばっていただい
ている若い人には、村に交通費を補助してくださいとお願いしても、補助もし
ません。ですから、先ほど私が言った、通勤に経費がかかるので、北秋田市に
勤めている人は、北秋田市へ住みます。そういうのを会社からもらっても、会
社は打ち切ります。10,000円なり5,000円なら5,000円。ですから、そうい
うことに対して毎月、10,000円なり、5,000円なり、大変でしょうが、毎月、
上乗せして、この上小阿仁村で生活していただけないか。そういうアイデアを
2度、質問しております。お願いしてありますが、一向に動きません。今後
は、村の職員は自分たちはいただいているわけですので、一般の、サラリーマ
ンのことも考えていただいて、できれば、村長に予算化していただきたいと思
います。是非、検討していただきたいと思います。これは、答弁はいりませ
ん。

これで、私の質問を終わります。

○議長（伊藤敏夫） これで一般質問を終わります。

○議長（伊藤敏夫） これより午後1時20分まで、お昼の休憩に入ります。
ご苦労様でございました。

12時11分 休憩